

■このコーナーを担当したのは、

はこもり
箱守 まり子さん（関館）
こ
せきたて

『里山』は、人と自然・人と人とのコミュニティスペース

現在の教育のカリキュラムではや自然体験や生産活動など、体験的な学習を積極的に取り入れ、さらに、地域と連携して学校教育をすすめることが望まれています。そして今、関城地域の学校や幼稚園では、自然体験活動に『里山』を活用する取り組みが、地域やNPO法人『里山を守る会』（理事長Ⅱ岩月正勝さん）の協力によって始まっています。

NPO法人『里山を守る会』

私たちの筑西市は、水と緑の豊かな自然に恵まれたところですが、しかし、かつては薪や炭、肥料などを供給する場として人々に利用されていた雑木林や竹林は、燃料が石油やガスに転換されたり、化学肥料の登場などにより、その価値が急速に失われました。それらの大半は開発によって失われるか、誰にも手入れされることもなく荒れ果てるばかり。笹が生い茂ったり、生活ゴミや粗大ゴミが不法に投棄されている場所さえあります。

そんな中、学校週5日制を期に、関城地区のNPO法人『里山を守る会』が、黒子駅より西へ4km程いったところにある里山『五郎助山』の整備を開始しました。荒れた林の中の雑木の間伐、下草刈り、不法投棄されたゴミの撤去に7か月間も要したといいます。2年目は手洗用の井戸掘り、竹炭焼き、3年目には山小屋『五郎助庵』が完成し、飲み水用の深井戸も整備されました。時を同じくして、黒子駅から2kmのところにあるもうひとつの里山『丸山』の整備も始まりました。

6年目となった今、里山では、幼稚園児の山遊び、小学生による里山探検や巣箱づくり、どんぐりの植栽、さまざまな研究テーマを掲げた中学生による自然観察会などが行われています。仲間たちと体験する初めての山仕事に興味を示し、歓声の飛び交う中に、子供たち本来の姿を見ることができます。その他にも、四季おりおりの野鳥・植物や、子どもたちが大好きなカブト虫・クワガタなどの観察会、親子で参加できるやさしいも大会、魚釣り大会、そして毎年10月には『お月見コンサート』が開催され、多くのひととの和を育んでいます。

ホタルの飛び交う環境に

『里山を守る会』では現在、ホタルの保全に力を入れています。『五郎助』や『丸山』には、たくさんのホタルが生息しています。たが、除草剤の使用や空中散布、小川のU字溝設置などで大きく減少。以前の姿を取り戻そうと、ホタルの飼育環境づくりに努力しています。今年の夏には、ホタルの飛び交う姿が見られるかもしれません。ぜひ、

ご家族で『里山』におでかけください。今、全国で里山保全の動きが高まっております。市内でも関城地区以外に、下館地区の嘉家佐和や明野地区の宮山などで里山整備が行われています。「失われつつある自然を残したい」「環境問題に取り組みたい」「子どもたちの健全育成を図りたい」などの思いが共通するところではないでしょうか。整備には困難な作業を要しますが、次世代を担う子どもたちの歓声が日本中の里山で聞かれるのも、もう間近です。

